

人と環境に優しいグループ経営をめざす

東和メックス 村田三郎 CEO に聞く

東和メックス事業内容が大きく変化している。かつてのレジスターの老舗企業から、LED（発光ダイオード）&ECO 事業やデジタルサイネージ事業といったトレンドな急成長分野へと活動領域を大きく転換している。老舗という伝統のうえにあぐらをかくことなく成長分野へ果敢に挑戦する村田三郎会長兼社長（CEO）に、業容転換への姿勢や今後の戦略などを聞いた。（聞き手 小林茂）



デジタルサイネージ市場で躍進

一人と環境に優しいグループ経営とは。

「この経営理念をベースにして具体的には強味の LED コントロール技術を活用した経営展開をしています。そして、LED での貧者の一灯で世の中を明るく元気にしたいの思いです。

また、人とは「病院をホテル化する」事業。環境とは省エネの医療／農業／業務用 LED 照明が念頭にあります。」

老舗企業からの転換

—老舗ならではの転換の難しさもあったのでは。

「この会社の経営を引き受けて 4 年目になります。老舗ならではの仕組みがなかなか時代に適合できず、業績は

悪化の一途をたどっていました。まずマンネリ、負けぐせ、ジリ貧化の“ママジ”に歯止めをかけ、“半旧倍新”を徹底しました」

“半旧倍新”を徹底

—“半旧倍新”。聞きなれない言葉ですね。

「これまで、ビッグサンズ創業以来 31 年間、“普及率ゼロ”の新市場を創り、結婚式のビデオ撮影、病院レンタルシステム、LED 看板システムで世の中に“文化”を創ってきました。東和メックスでも“一利を興す前に一害を取り除く”を重視し、既存事業は販管費コストを 2 分の 1 へと身の文化することで収支を改善。その余力を新規事業に投入し、パートナー

企業との連携により 2 倍のスピードとパワーで成長分野へ挑戦していくことです。」

—現時点でのグループの強味は

「デジタルサイネージ（電子チラシ）市場で昨年投入した液晶と LED の複合機“ブリッド”がヒットし、屋外分野でトップとなりました。また LED 表示機分野でも出荷台数、商品ラインナップともにトップ企業です。この市場は、これらが看板の電子化の波に乗り本格化してまいります。デジタルサイネージ部門では、屋外用と家庭用分野を主力として展開します。」

新しい市場の創出へ

—LED ライト事業へも本格参入している。

「LED 事業での年間仕入が 2500 万個の実績を活用し、競争力を高めていく。相性のよいソーラー機器、防犯カメラシステムとのシステム商材など、LED 球メーカーにはまねのできない商材・システムを“共創”でつくり、業務用市場で新しい市場を創ります。本年のローがは“創る”、“育てる”です。」

会社 DATA

東証Ⅱ（6775）

所在地 東京都文京区

本郷 3-5-5

03-5684-2321

事業内容

LED 表示機・LED 照明事業、SA（電子レジスター、POS）事業、デジタルサイネージ事業